

第六十七回

同明会能

令和四年二月二十六日 土曜日
午後一時開演

第六十七回 同明会能

令和四年二月二十六日 (土) 午後一時始

於京都観世会館

演目解説

今回は古より日本文化に最も影響を与えた国、中国を舞台にした曲目をお楽しみ頂きます。

西王母(せいおうぼ)

管弦を催し、神仙の降臨を待つ皇帝の前に光輝く姿の西王母が現れます。西王母は三千年に一度実を結ぶという桃を皇帝に捧げつつ、治まる御代を寿ぎ、神仙世界の舞【中之舞】を舞います。孔雀や鳳凰が飛びまわる天上世界の様、華やかな情景を表現します。

天鼓(てんこ)

帝の命令に背き呂水の川に沈められた少年天鼓。帝の弔いを受けて現れた天鼓は、生前に愛した鼓を打ち、戯れ、舞います。シテの舞う【盤渉楽】では、リズムミカルな足拍子、笛の高い音色、大小鼓の抑揚豊かな響きが調和し、鼓を打つことが楽しくて仕方が無い少年の様子を表現します。

項羽(こうう)

秋の宵時、家路を急ぐ草刈り男の前に現れた項羽の亡霊は、劉邦との決戦に敗れた最期の日を追想し、死した後の修羅の苦患を訴えます。本曲に使用される【舞働】は他の曲とは異なり、前後半で演出が変わります。前半は滅びゆく運命を悟り、身を投げた虞美人を探し求める焦燥と悲しみを。後半は敵に対する獅子奮迅の戦いぶりを表します。

一調(いちちよう)・独調(どくちよう)

能の一節の聞かせどころを謡と打楽器が一对で演奏します。独調は常の手を打ちますが一調は複雑で華やかな手(演奏パターン)を打つため、合奏よりも個性が際立ちます。一調一管(いちちよういっかん)では一調の謡と打楽器に笛が加わります。

猩々乱(しょうじょうみだれ)

秋の夜の潯陽の江のほとり。酒売り高風の前に猩々が現れ、酒を酌み交わし舞を舞います。一調一管では、この星々の舞を主本とし、

観世流

西王母

片山九郎右衛門

舞囃子

井林 清一 井上 敬介
竹村 英雄 森田 保美

林宗一郎
浦田 保親
深野 貴彦

喜多流

天鼓

盤渉

高林 呻二

井林 久登 左鴻 泰弘
竹村 英敏

高林 昌司
高林白牛口二
大島 輝久

観世流

項羽

浦田 保親

休憩

河村 凜太郎 前川 光範
古田 知英 杉 信太郎

田茂井 廣道
味方 玄
橋本 光史

菊慈童

林宗一郎

独調

林 大和

一調一管

猩々乱

杉浦 豊彦

舞囃子

前川 光長
森田 保美

観世流

楊貴妃

甲之掛

井上 裕久

谷口 正壽 左鴻 泰弘
曾和 鼓堂

深野 貴彦
片山九郎右衛門
橋本 光史

獅子

素雛子

渡部 諭 前川 光範
林 大輝 杉 信太郎

休憩

一調

邯鄲

松野 恭憲

吉阪 一郎

芭蕉

高林白牛口二

石井 保彦

三笑

味方 玄

井上 敬介

能

湯川 稜
向井 弘記
金剛 龍謹
金剛 永謹

咸陽宮

則久 英志
宝生 欣哉
御厨 誠吾
宝生 尚哉
平木 豊男
間島 田洋海

河村 大 前川 雪
林 吉兵衛 杉 市和

後見

廣田 幸稔
豊嶋 幸洋

地謡

重本 昌也 今井 克紀
宇高 竜成 種田 道一
豊嶋 晃嗣 今井 清隆
宇高 徳成 廣田 泰能

付祝言

終了予定 五時

は笛と太鼓のみで演奏します。絶えず変化するテンポにより、波の上を酔った足取りで舞う姿を表現します。狸々とは、人の言葉を話し酒を好む、猿に似た赤毛の生き物だということ。

楊貴妃（ようきひ）

玄宗皇帝の使者が楊貴妃の魂魄の在処を尋ねて、死後の世界、蓬莱宮まで訪ねて来ます。貴妃は玄宗と密かに交わした言葉を使者に語り、ありし日を恋偲んで【序之舞】を舞います。

甲之掛は序之舞の冒頭が通常と変わり、時折差し込まれる笛の高い音色が楊貴妃の凜とした美しさを引き立てます。美しく切ない名曲です。

獅子（しし）

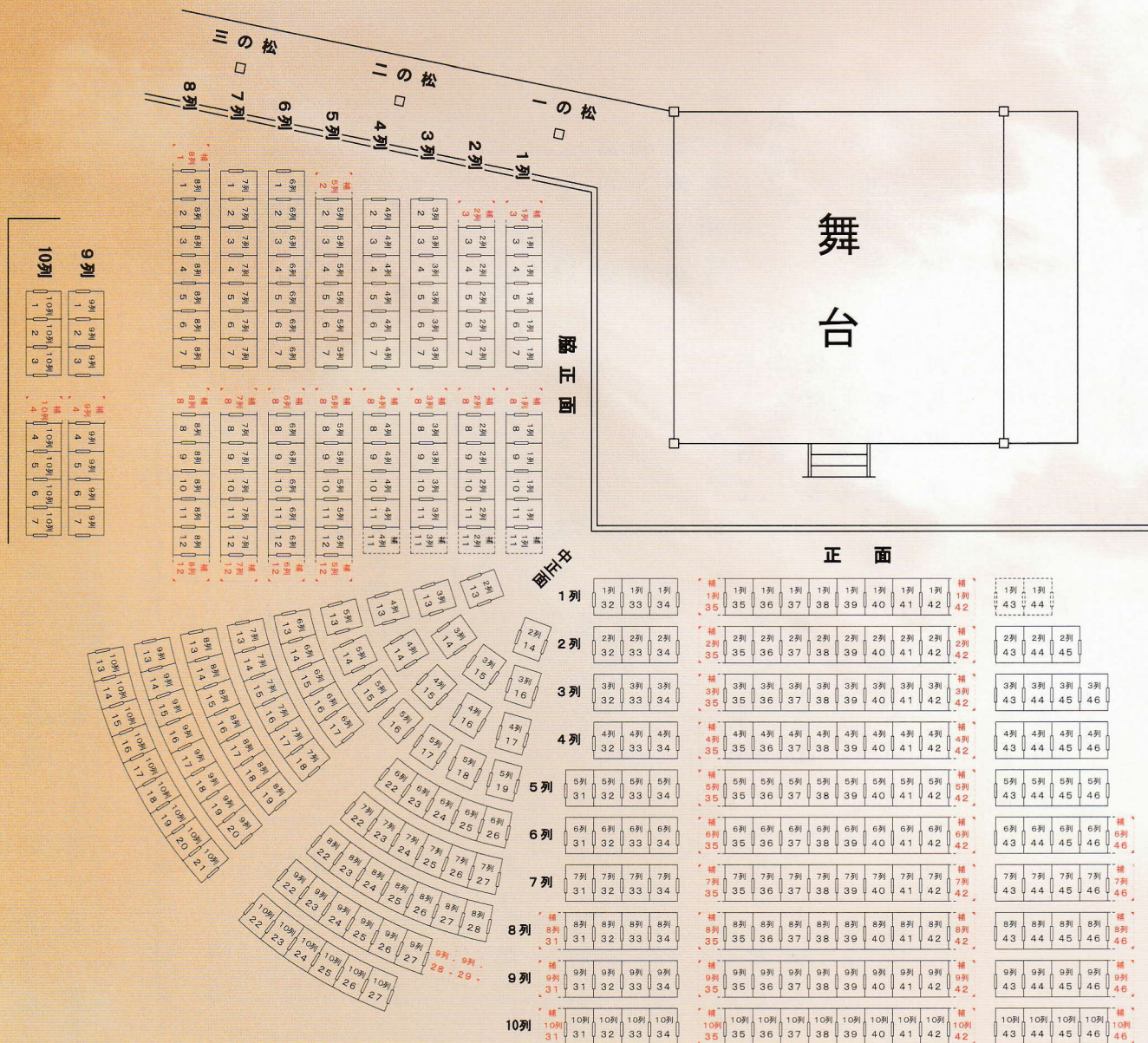
文殊菩薩に仕える霊獣の獅子が、咲き誇る牡丹の花に遊び戯れる曲です。まず、霊獣の出現を予感させる豪壮な序奏から始まり、一転、深山幽谷の静寂を感じる神秘の時間となります。あらためて力強い演奏となり、獅子が踊り出、舞い戯れる獅子舞となります。エネルギーの象徴でもある獅子の勢いを表すべく豪壮華麗に演奏します。能「石橋」「望月」「内外詣」に用いられます。

咸陽宮（かんにょうきゆう）

秦の始皇帝が造営した比類なく壮大な咸陽宮。帝はかねてより、敵国・燕の地図と、逆臣・樊於期の首とを所望していました。そこへ、それら二物を携えた荊軻と秦舞陽が、宮殿に参内し帝に謁見します。実はこの二人は燕の刺客。地図を入れた箱に忍ばせていた剣を帝に突き付けます。観念した帝は、寵妃・花陽夫人の琴歌の演奏を今生の別れにと求めます。花陽の奏する秘曲の素晴らしさに、刺客二人もついつい聞き入ってしまった。...

【琴曲之会釈】では花陽が琴歌を奏する場面

（琴之段）で笛が音を添えて秘曲の風情を際立たせます。また、ワキ方の荊軻と秦舞陽の激しい演技も見どころです。

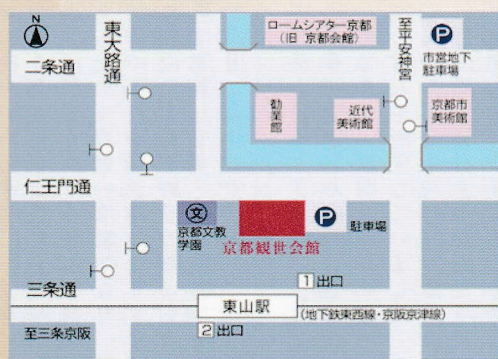


チケットは
12月6日(月)より発売
 一般自由席券 **6,000円**
 座席指定料 別途 **1,000円**
 学生2階自由席券 **3,000円**

座席指定は令和4年1月24日(月)から2月24日(木)まで
 エラート音楽事務所で受付いたします
 座席指定をご希望の方は一般券をご購入の上、下記電話番号までお申し込み下さい
 2階席の指定も可能です お申し込み時にお問い合わせください
エラート音楽事務所 電話 075-751-0617
 受付時間 10:00-17:00 定休日 土曜 日曜 祝日
 チケット取り扱い：京都観世会館、エラート音楽事務所、各出演楽師

一般社団法人 京都能楽囃子方同明会
 ホームページ
www.noh-doumeikai.com

【次回 第68回 同明会能】
 令和5年2月25日(土)
 於 京都観世会館



京都観世会館
 〒606-8344
 京都市左京区岡崎円勝寺町 44
 電話 075-771-6114
<http://www.kyoto-kanze.jp>
 ※有料駐車場がございます

文化庁文化芸術振興費補助金
 (舞台芸術創造活動活性化事業)
 助成：**文化庁** 独立行政法人日本芸術文化振興会